

月報

平成 22年10月 (第40 ~ 43週)

発行年月日: 平成22年(2010年) 11月29日

発 行: 滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ことになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾		感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾			
		1~9月		10月				1~9月		10月			
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	86	0	11	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
	急性灰白髄炎	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
二類	結核	190	18,937	23	2,107	256	26,932	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	56	0	5	0	
三類	コレラ	0	9	0	1	1	16	0	0	0	0	0	
	細菌性赤痢	2	157	0	51	0	180	0	11	0	0	9	
	腸管出血性大腸菌感染症	53	3,475	8	336	27	3,886	0	0	0	0	0	
	腸チフス	0	24	0	2	0	29	0	0	0	0	0	
	バラチフス	1	18	0	1	0	27	0	3	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	48	0	4	1	56	3	631	1	66	10	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	3	150	0	20	3	
	A型肝炎	3	311	0	7	0	115	0	179	0	14	8	
	エキノコックス症	0	8	0	1	0	26	0	16	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	2	119	0	20	2	
	オウム病	1	9	0	0	0	21	2	89	0	10	2	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	1	1,079	0	162	9	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	58	0	11	0	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	
	Q熱	0	2	0	0	0	2	0	75	0	11	3	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コクシジョイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	つつが虫病	0	114	0	16	0	465	5	72	0	4	2	
	デング熱	1	184	0	31	0	93	1	395	0	15	7	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	138	
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,639	
新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)													

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*):集計期間は平成21年7月24日~平成21年8月24日、-:未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (10月)

<結核> 23名

性別: 男性 12名、女性 11名
類型: 患者 19名
無症状病原体保有者 4名
病型: 肺結核 15名
その他の結核 4名
無症状病原体保有者 4名

<腸管出血性大腸菌感染症>

性別: 男性 3名、女性 5名
類型: 患者 5名
無症状病原体保有者 3名
年齢: 0~9歳 3名、10~19歳 1名
20~29歳 1名、40~49歳 1名
50~59歳 1名、80歳以上 1名
血清型: 毒素型:
O157:VT1&VT2 7名
O157:VT2 1名

<アメーバ赤痢> 男性 60歳

推定感染経路は不明で、推定感染地域は日本国内です。病型は腸管外アメーバ症です。

<梅毒> 男性 46歳

推定感染経路は同性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は無症状病原体保有者です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

10月の概要

<インフルエンザ>

第40～43週(10/4～10/31)には少数の報告がありましたが、昨年を除く過去の同時期とほぼ同様の発生状況を示していました。インフルエンザの発生状況は、下記グラフに示すとあります。

<小児科定点疾患>

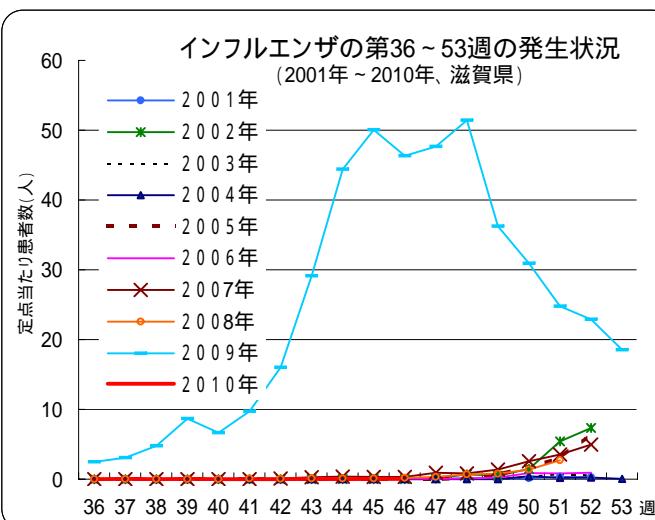
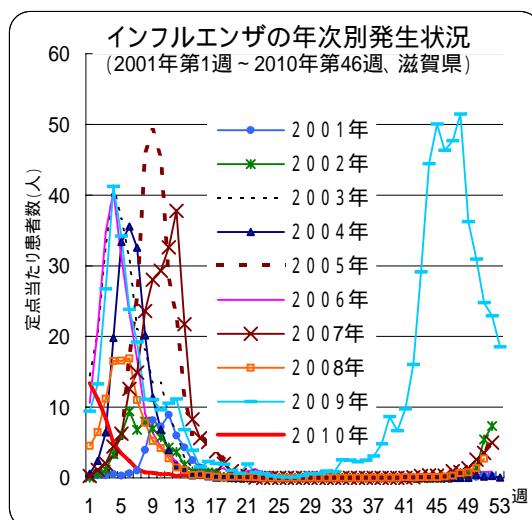
先月より増加した疾患は、RSウイルス感染症、水痘および百日咳で、その他の疾患は先月より減少していました。特に、RSウイルス感染症では、先月と同様に高島保健所管内で多くなっていました。水痘では草津保健所管内から、百日咳では大津市保健所管内からの報告が多くなっていました。高島保健所管内における水痘の定点当たり患者数は、第43週(10/25～10/31)に4.50となり、注意報発生基準値(4.00)を超えていました。

また、感染性胃腸炎、伝染性紅斑(リンゴ病)、突発性発しんおよび流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、先月より減少しているものの、昨年同時期より多くなっていました。ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況は、高島保健所管内で多くなっており、定点当たり患者数は警報終息基準値2.00をかなり超えていました(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月と横ばいで、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は先月より微増となり、長浜保健所管内からの報告でした。無菌性髄膜炎は先月と横ばいで、東近江および長浜保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は先月より減少し、すべて甲賀保健所管内からの報告でした。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

インフルエンザの発生状況

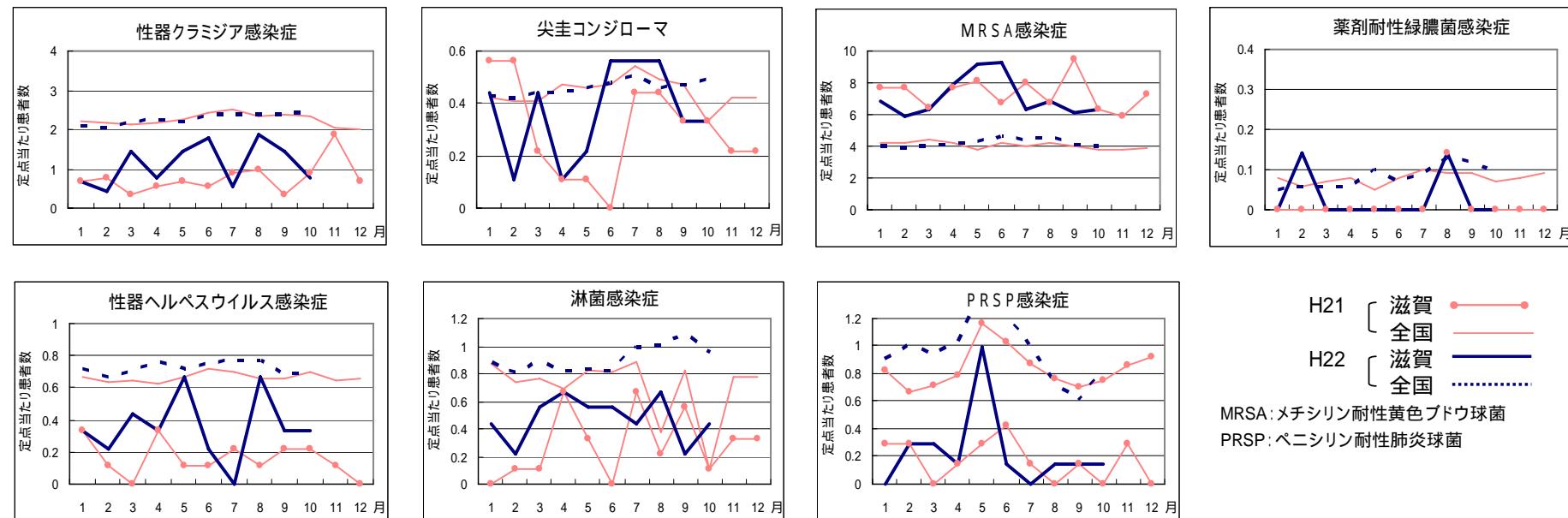


<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶連菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

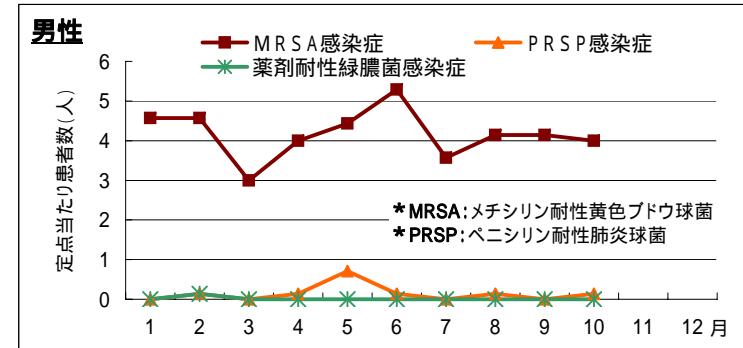
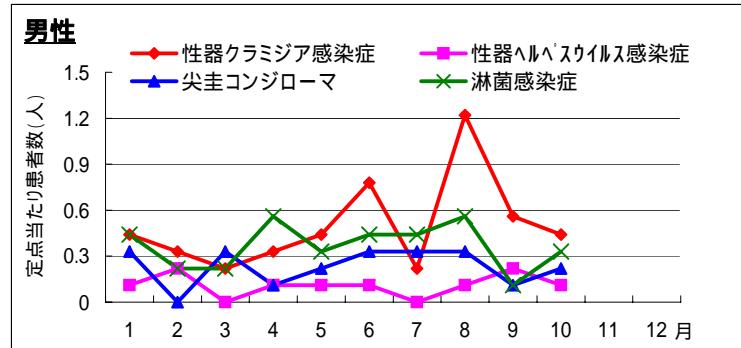
3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年10月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患者数	6	4	13	7	13	16	5	17	13	7			101
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78	0.56	1.89	1.44	0.78			11.22
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患者数	3	2	4	3	6	2	0	6	3	3			32
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22	0	0.67	0.33	0.33			3.54
尖圭コンジローマ	罹患者数	4	1	4	1	2	5	5	5	3	3			33
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56	0.56	0.56	0.33	0.33			3.66
淋菌感染症	罹患者数	4	2	5	6	5	5	4	6	2	4			43
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56	0.44	0.67	0.22	0.44			4.78
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患者数	48	41	44	55	64	65	44	48	43	44			496
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29	6.29	6.86	6.14	6.29			70.90
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患者数	0	2	2	1	7	1	0	1	1	1			16
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14	0	0.14	0.14	0.14			2.28
薬剤耐性綠膿菌感染症	罹患者数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0			2
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14	0	0			0.28

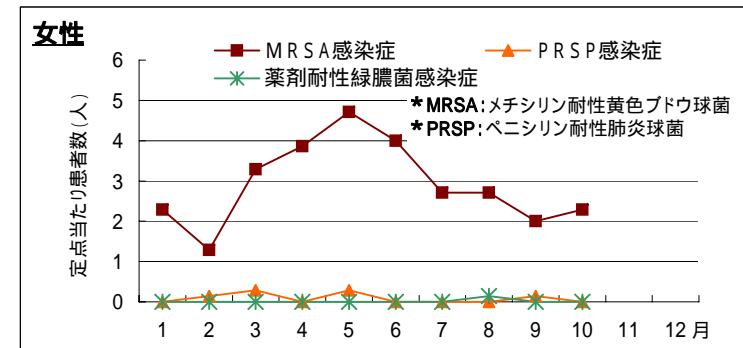


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は淋菌感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患は性器クラミジア感染症です。性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマおよびPRSP感染症は先月と横ばいです。また、薬剤耐性綠膿菌感染症の報告はありません。

性感染症定点における疾患別発生状況 (H22.10)



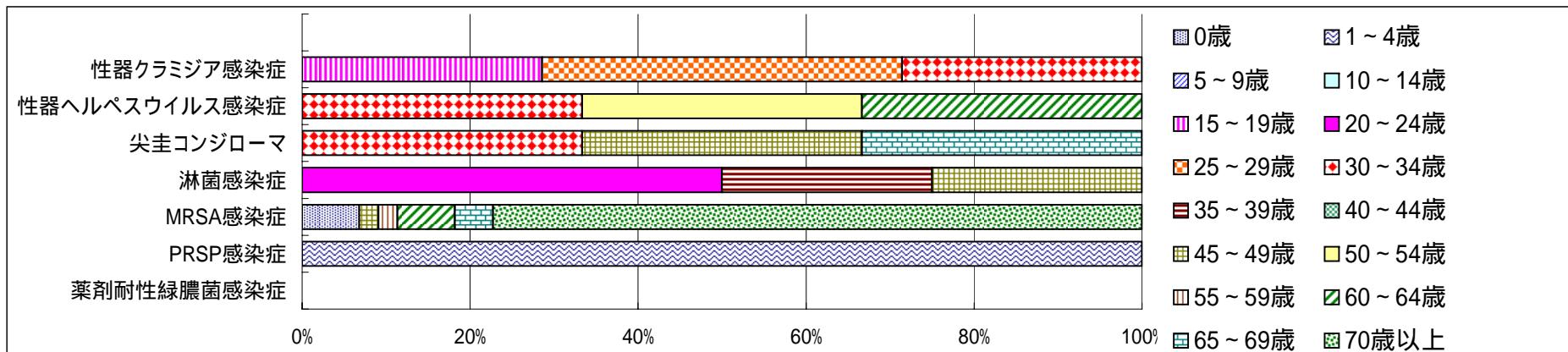
月	性器クラミジア感染症	尖圭コンジローマ	性器ヘルペスウイルス感染症	淋菌感染症
1	0.25	0.05	0.25	0.05
2	0.15	0.15	0.05	0.05
3	1.20	0.15	0.35	0.35
4	0.40	0.05	0.20	0.20
5	0.95	0.05	0.55	0.25
6	0.95	0.20	0.15	0.15
7	0.30	0.20	0.05	0.05
8	0.65	0.20	0.55	0.15
9	0.90	0.20	0.15	0.15
10	0.30	0.20	0.20	0.10



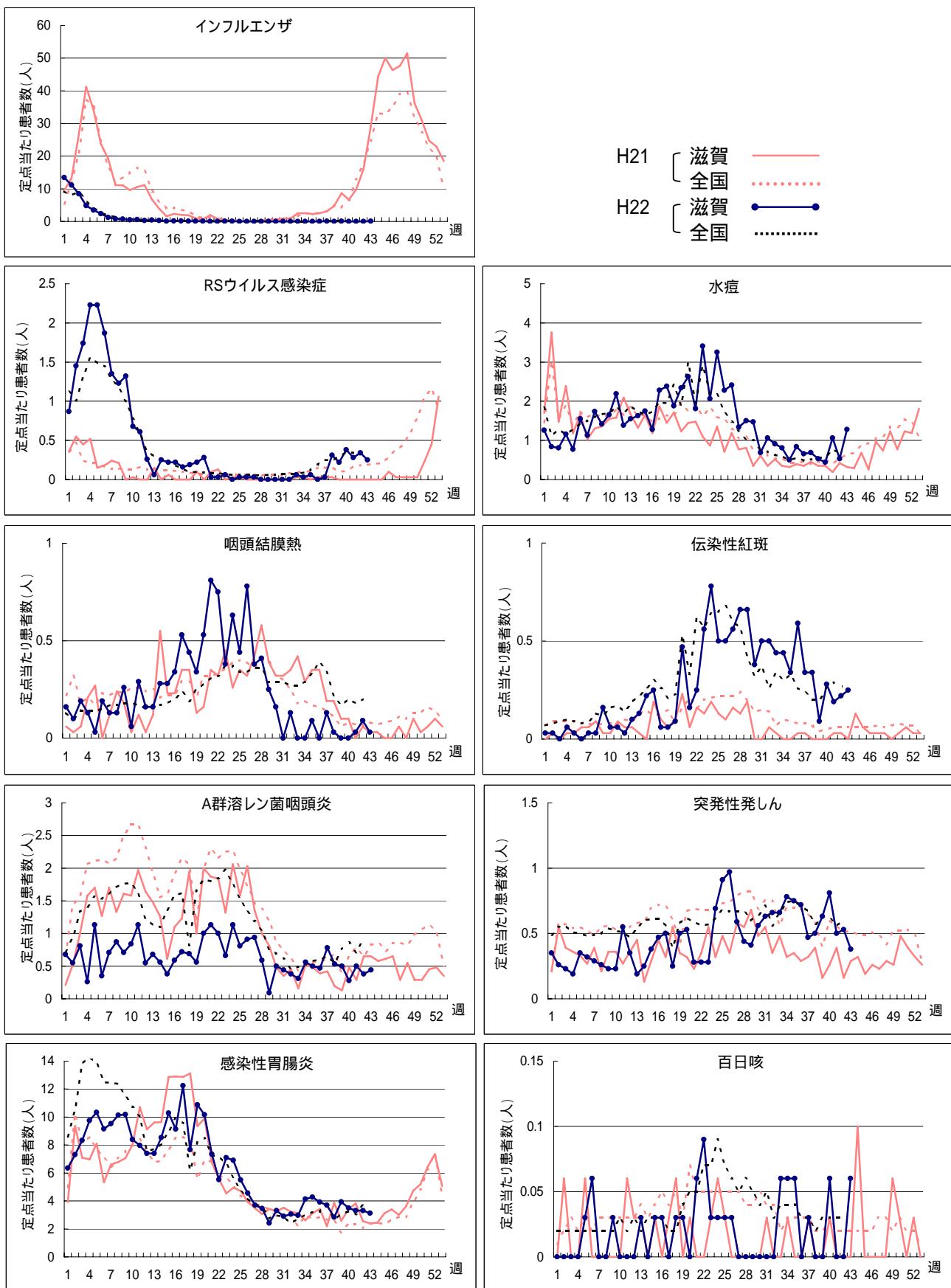
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとあります。性器クラミジア感染症では、男女ともに減少し、特に女性で急減しています。淋菌感染症では、男性で増加しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、男女ともに15～19歳からの報告があり、男女ともに、25～29歳および30～34歳に集中して報告されています。

疾患別・年齢別発生状況(H22.10)

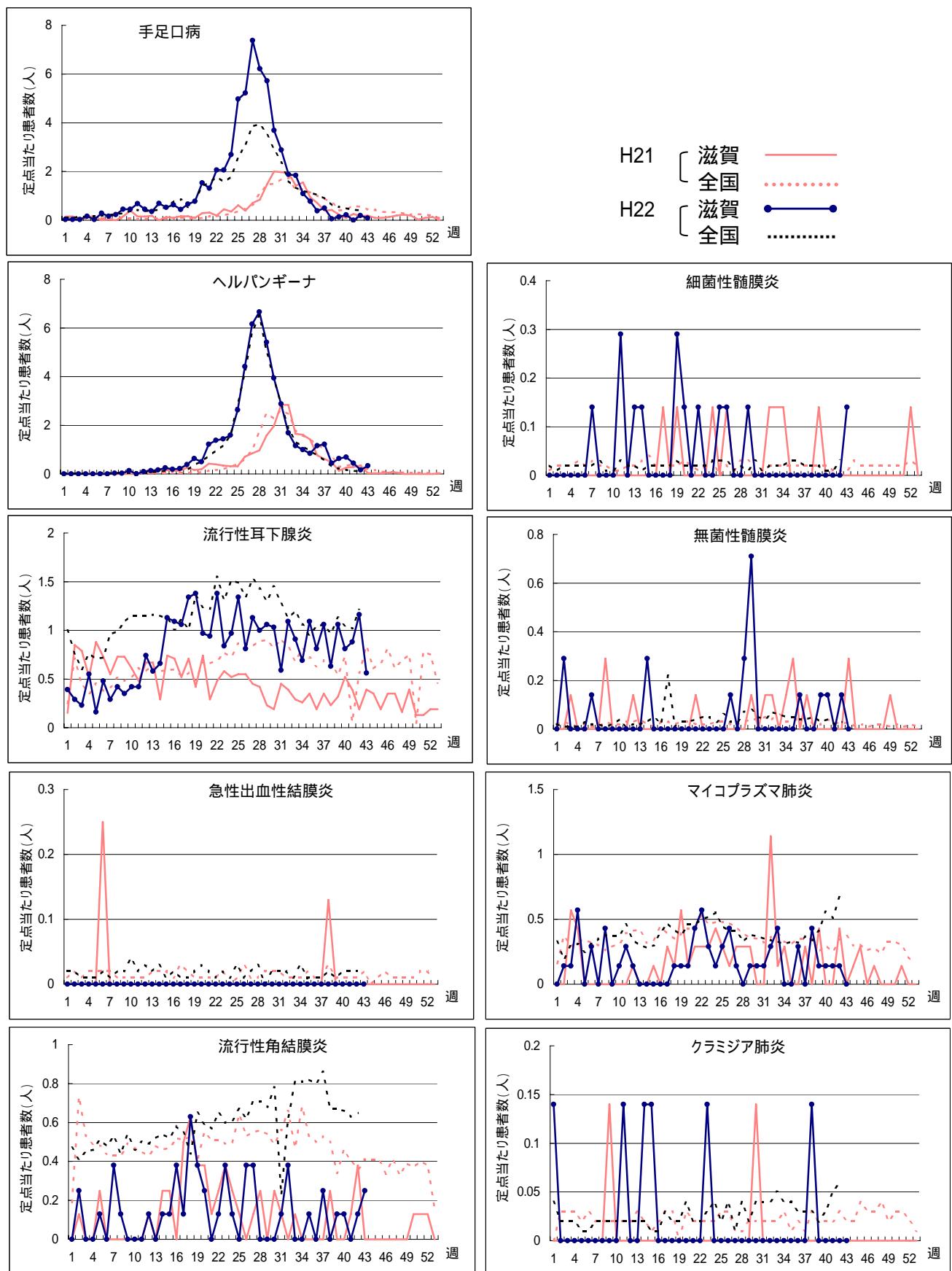


疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～43週、H22.1.4～H22.10.31)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～43週、H22.1.4～H22.10.31)



戻る